

平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270500457		
法人名	有限会社マエダ商事		
事業所名	うめたグループホーム		
所在地	青森県五所川原市梅田字福浦475-13		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyoho.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0270500457&SCD=320>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年9月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

\* 利用者の変化や状態を把握するため、申し送り時のほか、状況について話し合う場を設け職員間で共有し対応できるよう努めている。  
 \* 毎食後の口腔ケアと昼食前の口腔体操にて、清潔や嚥下防止に取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

\*利用者一人ひとりを尊重し、職員間で話し合い統一した考えで対応し、個別ケアを実践している。  
 \*食前の口腔体操や発声練習の励行、排泄の自立支援に向けた働きかけなど、ケアの質向上に向けて取り組んでいる。  
 \*周辺には住宅、アパート、温泉等があり、また敷地内にはデイサービス、保育園が隣接し、子供の声が響く中で地域に密着した環境である。  
 \*近隣の住民による災害時の協力体制も整っており、利用者が安心して生活できる環境にある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務と地域との連携を目標にした理念の作成をしており、ホーム共有スペースであるホールに理念を掲げ、確認しあっている。	前回の外部評価での助言を元に、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を新たに作成し、ホールの見やすい場所に掲示し職員間で確認し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美容室を利用、散歩がてら近所の野菜売り場へ出かけるなど、住民と関わりができるようにしている。また、住民や保育園児との交流を深めるためのふれあい遠足に参加している。	夏祭りの案内を近隣に配布し参加を呼び掛けている。認知症に関しての相談もあり、地域の中に浸透してきている。また近くに知的障害者の施設があり、利用者・職員が毎年行事等へ参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職場体験を積極的に受け入れ、認知症の理解に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。市職員、家族、町内会長、民生委員が参加、毎回テーマを設けると共に活動の報告を行っている。(認知症、病気、研修報告)	町会長、民生委員、市職員、家族、職員、管理者、事業所代表が参加し定期的開催されている。外部評価の報告、病気に関する知識、認知症についての講義や研修報告等を行い、また出席者から意見や質問等も出され、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のほか、相談や情報の交換、訪問で連絡を密にし、サービス向上に取り組んでいる。	分からないことや不明なこと等、その都度市の担当者に連絡し相談している。担当者がホームに立ち寄り状況把握に努める等、相互の連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベット柵利用者に関しては家族の同意を得ており、日勤帯、夜間帯に異常がないかチェック表で確認している。	身体拘束や虐待に関するマニュアル・資料を常備し、職員が各自で学べるようになっていく。日頃から職員間で注意はしているが、全員が正しく理解できる所までは至っていない。内部および外部への研修にも参加していない。	身体拘束廃止や虐待防止に関する正しい知識を全職員が学ぶために、内部での学習会を行ったり、できれば外部への研修にも参加し職員間に浸透できるように検討されることを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議で虐待について資料を用いて学び、職員に報告しているが、関連研修への参加はしていない。内部研修で学ぶ機会を設けるように検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連研修に職員が参加。研修報告書を他職員が確認し、定例会議でも伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明を行い、疑問点の確認をしながら進めていくうえで理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見交換、要望の聞き入れができるよう配慮している。苦情窓口に関係機関の明示もしている。	家族の面会時や、電話などで意見・要望を伺うようにしている。その中から感じ取れるものがある時には、職員間で話し合い対応を統一し、家族へ確認をとる等意見を反映させるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談の機会を設けたり、定例会議や申し送り時に出されたものを検討、改善につなげている。	定例会議等では意見が出しにくい部分もある為、代表・管理者と職員の個人面談を行い、職員からの気付きや意見などを吸い上げ、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望等があれば、その都度代表に伝えられるよう配慮されている。検討し、報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように努めている。報告書も職員で確認しあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西北五グループホーム協会の定期研修会に参加し、同業者との交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から状況を聞くと共に、担当機関より情報を得ている。その上で対応を考え進めていくことで、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。 本人の様子を報告すると共に、家族の要望や不安の傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上。 本人と家族の話を傾聴しその時点で必要な支援を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を知り、一緒に過ごせる場を作り信頼しあえる関係を築き、支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との思いを受け止め、支えあう関係作りに配慮し、気軽に訪問できる雰囲気を作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の対応や商店訪問(美容院)等、本人の状況を考慮しながら、できる範囲で支援している。	入居前からの行きつけの美容院やお店を利用している人、知り合いの理容訪問を受けている人もいます。また近所の知人・友人の面会や電話もあり、関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係の変化を察知し、関わりが持てる場への誘導や声掛けにて、支えあえる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活状態の把握、関わりの継続ができるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時の状態の変化を察知し、言動に対応本人の気持ちの読み取りを心がけている。職員間、家族とも情報を交換しながら、検討している。	利用者の言動の中から意向を汲み取ったり、家族から話を聞き情報を得るように努めている。情報に基づいて、一人ひとりに合った対応を職員間で検討し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者に情報を頂き、本人からも話を聞きながら、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々を知り、日々の生活より個人全容を把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議の中にカンファレンスも取り入れ、本人の生活が活性される計画を作っている。	利用者からの要望をできる範囲で確認し、また家族の面会時に希望や意見を聞き、カンファレンスで検討し、それらを反映させた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やミーティングで情報を交換。状況変動に応じ、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができるよう、関連施設の機能活用の協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人宅の訪問や入居前美容院利用など、家族の協力もあり継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への継続受診がされている他、希望の医療機関があれば通院の支援をしている。	入居前からのかかりつけ医を継続するようにしているが、遠方からの入居の場合は、本人・家族の意向を確認の上、希望の医療機関または事業所の協力医を利用している人もいる。通院には看護師が付き添っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時は、その都度看護師に報告し、状況によっては迅速に受診が受けれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院と家族との連絡を密にし、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化等においては、家族、病院とも連絡しあっているが設備の面で対応が十分でなく、状態によっては他施設に移動になることが多い。	事業所の方針として看取りは行っていない。重要事項説明書にも記載し、入居時に説明している。状態に変化があった場合には家族と相談の上、入院または他の施設に移動という形をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の看護師が中心となり、利用者の状況変化時、対応方法を学んでいるが、不定期である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しており、うち1回は夜間想定で行っている。関連施設で行っている、消火訓練にも毎回参加している。	年2回の避難訓練の他に、隣接する保育園の消火訓練にも参加し、全職員に周知している。ホットラインを活用し、近隣のアパートの住人や美容院等にも協力してもらえ体制を整えている。事業所内には消火器の場所・避難路が掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状態に応じて、声掛けに配慮している。また、プライバシーに配慮しながらのケアの実践をしている。	一人ひとりの状態に合わせ、排泄介助時の声かけや、入浴時も希望によっては同性介助に配慮するなど、職員間で統一した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような機会を作り、混乱しないような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で過ごしたい利用者にはそっとひとられる場へ誘導している。食事の後片付けやゲーム等も行ったり、買物を希望された時は買物支援するなど、利用者の希望に添えるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にできる限り対応し、その人にあつた身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コミュニケーションを図りながら、できる範囲で一緒に準備し、楽しんで食事ができるよう配慮している。	調理準備や後始末などは得意な人と不得意な人がおり、それぞれに合った役割をお願いしている。食事は利用者と職員と一緒に摂り、会話や笑いもあり、楽しい雰囲気の中で支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や状態の変化について、職員間で情報を交換しながら話し合い、その都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア施行し状態の把握に努めている。週2回、義歯洗浄の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿、排便チェック表を用いて排尿回数の確認、また習慣の把握にて本人のパターンで排泄できるよう取り組んでいる。	利用者個々の排泄パターンを把握し、徐々にオムツが外せるように工夫している。トイレ使用者には時間を見て声掛け・誘導し、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	事業所の看護師が中心となり、個々の運動の工夫や服薬等による排便調節に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	事業所にて決まりはあるものの、希望にできるかぎり対応できるような体制をとっており、家族や本人にも伝えている。	温泉を利用しており、週2回の入浴の他に希望があればその都度対応している。入浴介助はマンツーマンで行い、安心して入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を把握し、本人に合った状態で休めるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が申し送り時、または受診記録ノートで全職員に周知しており、時に確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量にあわせ、できることをして頂き、生き生きと過ごせるよう支援しています。また、体調に配慮しながら、レク参加で気晴らしができるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	状態を考慮しながら、外出の希望に対応している。また、家族と連携をとり支援につなげている。	2ヶ月に1回は全員で出かけるようにしている。また外出の希望があればその都度対応している。買い物や外食などの他に、家を見に行きたい・昔の職場を見たい等の希望にも沿うように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力量に合わせて対応。買物時は自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、対応できるよう家族にも了承を得て対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内全般、広く明るい雰囲気になるよう心がけている。また、季節の花を飾ったりし、居心地の良い空間を工夫している。	居室は明るく食事テーブルの他にソファも配置され、自由にくつろげるようになっている。台所から調理の音が聞こえ、居間からは職員・利用者の笑い声が聞かれ、家庭的な雰囲気が漂っている。窓からは田や畑が見え、季節感も感じられる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の雰囲気や、様子に配慮しながら共有空間で自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを配置、家族や本人と相談しながら、本人好みの居室で過ごせるように配慮している。	使い慣れた寝具や小タンス、小物入れなどが置かれている。家族の写真なども飾られ、本人が居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体の機能を活かし安全性を考え、移動箇所の手すり設置をしたり、トイレ箇所や浴室がわかるよう工夫している。		